

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1271600502		
法人名	株式会社 レオパレス21		
事業所名	あずみ苑 並木町		
所在地	千葉県成田市並木町25-108		
自己評価作成日	平成 26 年 1 月 29 日	評価結果市町村受理日	平成26年4月23日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/12/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人ヒューマン・ネットワーク		
所在地	千葉県船橋市丸山2-10-15		
訪問調査日	平成 26 年 2 月 24日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

あずみ苑並木町は、ご利用者様の尊厳を大切に日々のサービスを提供しております。毎月、イベントを実施・提供させて頂いております。楽しいこと一緒に計画し、皆で作りに上げるイベントはあずみ苑ならではです。楽しいことを楽しみにすることで日常生活にメリハリが生まれ生きがいに繋がります。利用者様の安心、満足が私達の満足でもあり、すべての人がつめに笑顔で過ごし、自分らしく生きる喜びを感じられる環境作りを目指しております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

理念である「利用者の自立支援」では、介護度が高くなってもオムツを使用しない・無くす事を心掛け、今ある力を維持していくケアを行っている。また「利用者本位の運営」では、利用者の状態に合わせたおもてなしの心で接し、寄り添い敬意を持った支援を行っている。フロアの担当制を変更して、職員が全ての利用者把握する体制とし、日々実践する事を取り決め、状況や気づきを申し送りノートに記入して支援に活かしている。日常から思い通りの生活が出来るように、また自分らしく生きる喜びが感じられるように、環境を整え望みに合わせた支援を行っている。職員の質の向上を目指し、個人毎にテーマを持ったEラーニングや、会議でのインフルエンザ対策等の実践研修を行っている。総合病院院長が月2回の往診を行ない、24時間365日の協力体制が出来ており、利用者・家族にとって大きな安心となっている。職員がサポーターとして小学校や会館で認知症の寸劇を演じて情報を発信し、家族交流会でホームの実情を話して理解を深め、地域に密着した活動が行われている。理念をケアに活かし、医療機関との連携が大きな安心となり、地域に密着した活動が行われている事を評価したい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが ○ 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営理念は、玄関入口に掲示しております。「利用者の自立支援」「利用者本位の運営」「地域との連携・地域への貢献」3つの理念を掲げてます。出勤している職員は、必ず朝礼時に理念を復唱し、理念実現に向けた介護を心掛けております。	「利用者の自立支援」では今ある力を残し、「利用者本位の運営」では利用者に合わせて支援を行う等、3つの理念を朝礼で復唱し理念に沿った介護を心掛けている。管理者は、住み良い環境を作るための細かな気づきを、業務連絡として発信し支援に活かしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎月、行事を開催しておりその際に地域のボランティアの協力のもと、催しを披露して下さっております。今後も、たくさんの方との交流を深められるよう、積極的に行事等を開催して行きたいと思っております。	地域の夏祭りの山車は、事業所の前で止まってお雛子を演じ、利用者の楽しみとなっております。地域との大きな繋がりがなっている。また、行事にはボランティアの協力で催しを見たり、歌や踊りを楽しんでいる。職員がサポーターとして、小学校や会館で認知症の寸劇を演じて情報を発信し、家族交流会でホームの実情を話して、理解を深める活動が行われている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症サポーターの職員がおり、職員が認知症についての講演会を実施しております。また、成田市福祉祭りにて、小学生を対象に、認知症についての寸劇を実施しております。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回、市役所の介護保険課、地域の区長、民生委員、入居者様のご家族代表に参加して頂いております。苑での活動内容や、反省点等を行っております。また、議事録を残し、次の会議に活かしております。	2か月に1回運営推進会議を開催し、議事録を残し課題は次回に活かしている。事業所の状況や地域との連携について報告し、出来る事から運営に反映している。消防訓練の見学や行事への参加を依頼し、区長の紹介で消防団との話し合いが行われる事となった。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議での意見交換や、成田市小規模多機能・グループホーム連絡会にて、情報の共有に努めております。	市の担当者とは、運営推進会議を通して情報提供や意見交換がなされている。また、グループホーム連絡会の委員として参加し、この場でも話し合いを行い連携を深めている。研修会の実施や地域のグループホーム情報の共有化がなされておりサービスの向上や業務に活かしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	現在、身体拘束をしている入居者様はいませんが、身体拘束委員会にて、身体拘束についての意識統一を図っております。	身体拘束をしないケアを基本とし、重要事項説明書の中で説明している。転倒のリスクと身体拘束リスクを家族に良く説明し、選択肢として身体拘束を行う場合がある。実施の後は、拘束時間や内容を記録し継続する必要性を検討し、拘束時間を短縮するため工夫も行っている。拘束委員会はリスクについて検討を行い、意識の統一を図っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	常に、虐待についての内容を職員に周知し、施設内での言葉の虐待がないよう、接遇等にも気をつけております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支	現在、左記事例はありませんが、身元引受人がいない人の対応等、市役所の担当者に確認したりと、いつでも対応できるようにしております。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時はもちろん、退所の際にも、契約内容を忘れてしまっている可能性を考え、1つ1つ丁寧に説明させて頂き、ご納得の上、ご契約を結んでおります。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議にてご家族様のご意見、ご要望、を確認すると共に、ご意見箱を設置し、意見を聴取できるよう努めております。また、毎月発行している「ぼっかぼか」にて、施設の雰囲気や行事風景をお伝えしております。	運営推進会議において、家族代表から「避難訓練・外出の機会・感染症への対応等」の要望があり、出来る事から運営に反映している。また家族の来訪時には管理職が必ず話を聞き、不安の解消に努めている。「ぼっかぼっか新聞」を毎月発行し、「お知らせ・掲示物の紹介・行事の利用者の写真」等を掲載して情報を発信し、業務についての理解を深める努力を行っている。	利用者個々の日常の様子を新聞を送る際に同封して、家族の安心に繋ぐとともに、家族の意向を広く把握できるよう更なる工夫が期待される。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回、全体会議、フロアーカンファレンスを開催し、入居者様・職員の改善点及び、業務内容についてを検討しております。また、委員会内にて研修をしたり、本社研修に参加し、スキルアップを図っております。	毎月1回の全体会議やフロアーカンファレンスで、運営や利用者の状況について職員の意見を聞いている。フロアー担当から全てのフロアー担当に変更する事で、全員の利用者の状態が把握でき、行事や非常時の対応に活かされている。管理職は職員との個別面談を年2回行ない、人間関係や個人的悩みの相談にのり、ケアの意見は運営に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	コンセプトである「つねに笑顔」を心がけ、入居者様が笑顔になれる環境作り、職員が働きやすい環境作りに努めております。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	入社時に本部にて研修を行い、スキルを持って働いて頂くと共に、入社後も本部研修に順次参加し、スキルアップを図っております。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	毎月開催する、成田市小規模多機能・グループホーム連絡会にて、各管理者や、成田市介護保険課の担当者が参加し、情報交換をしております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	常に、職員はご入居者様の声掛けや、体調の変化などに注意をし、ケアに努めております。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様と連絡を取りながら、ご家族様の困っていることや、不安に思っていることなどを伺いながら、解決出来るように努めております。また、ご家族様との信頼関係を構築しております。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご利用者様、ご家族様が安心してサービスが提供出来るように日々、ご家族様、ご利用者様の様子を感じとり、要望に応じてサービスを提供できるよう努めております。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご入居者様が、自宅と同じように過ごせるよう、お互いに安心した生活を送って頂けるよう、努めております。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	気軽に来苑できるような環境作りを行っています。コンセプトにある「つねに笑顔」を忘れずに、ご家族様と共に楽しく話が出来よう環境になるように努めております。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご友人であっても自由に来苑でき、日々のご入居者様の様子を感じ取って頂けるような環境作りを行っています。	公園への花見や地域一番の中沢の祭りは、利用者の大きな楽しみとなっている。車を借りて出かけ、関係が途切れない支援に努めている。管理職は笑顔で迎え、訪問しやすい雰囲気づくりを心掛けている。友人・知人の来訪で喜ぶ様子や家族との外出・外泊が行われ関係維持が図られている。	利用者・家族から、外出に対する要望が多く聞かれる。介護度も上がり1対1での支援にも限界があり、なかなか外出に応えきれない実情がある。庭先での会話や利用者の負担にならない程度の外出の機会を増やすなどこまめな支援が望まれる。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日々、職員はご利用者様の状態や様子を把握し、ご利用者様が苑での生活を楽しく過ごせるよう支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス契約が終了しても、ご家族様やご本人様との信頼関係を断ち切らないよう、相談や支援が出来るように努めております。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	常に、ご本人の思いや意向を把握し、聞き取りが困難な利用者様には、表情や動きから意向をよみとり支援出来るように努めております。普段から、ご利用者様をよく観察することを心掛けております。	毎月1回、全員参加のケースカンファレンスが開催されている。アセスメントシートを基に利用者の思いや意向を把握し、ケアに活かせるよう検討している。日々、利用者の状況を良く観察して気付いた事をメモに残し、ケース記録に転記して情報を共有している。困難な利用者には、家族に生活状態等を聞いて意向に沿えるよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居する以前での生活歴等は、アセスメントで把握し、少しでも以前と同じような生活が出来るように、職員と日々、話し合いながら支援しております。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご利用者様の無理がなく、施設での楽しい生活が送れるように支援しております。また、ご入居者様の状態に合わせ、出来ることは行っていただくよう支援しております。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月、職員とカンファレンスを実施し現在のご利用者様の状態はどうか、困っていることはないか等を話し合い、全職員が現状の把握に努め、話し合いの結果をもとに介護計画を作成しています。	毎月カンファレンスを開催して、家族からの意見や利用者の状態について話し合い、アセスメントシートに記入している。6か月に1回はチームでケアプランを作成し、家族に報告し了解を得て支援を行っている。モニタリングにより、ケアプランの実施状況を担当者会議で検討を行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の状態を職員と話し合い、気づいた点は連絡ノートに記入し、職員は必ず出勤時にはノートを参照し情報を共有しながら業務に努めている。その結果、介護計画者の見直し等に活かされております。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人にあった、サービスが提供されているか職員と月1回、カンファレンスを行いサービスの見直し、柔軟に支援が出来る取り組みを心掛けております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	月1回ペースにてボランティアが来苑し、各演目を披露して下さっています。真夏・冬場の外出支援は控えていますが、暖かい季節などは近くを散歩したりしております。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回、往診の先生が来られ、ご利用者様の体調を確認しています。また、入居する以前からかかっていた病院をご希望な方は、かかりつけ医にて受診を行っております。	かかりつけ医については入所時に希望を聞き、受診は家族の支援で行っている。職員が同行した場合はケース記録で情報を共有化し、家族には受診報告がなされている。提携医療機関の院長が、主治医として月2回の往診が行なわれ、家族に大きな安心となっている。また急変時にも、24時間365日対応がなされている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	施設内に看護職員は配置していませんが、佐倉中央病院の院長先生が月2回往診していると共に、24時間365日、連絡・相談できる体制を確立しております。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、	入院・退院時は、ご家族様、担当医等と話し合いの場を設け、現在の状況を及び今後の対応について具体的に相談しております。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	往診医や、かかりつけ医の助言をもとに、今後の施設での生活やご家族様との話し合いの場を十分に設けながら、方針を決めております。	契約時に、重度化や終末期の対応について、出来る事出来ない事を説明し納得を得ている。利用者の状態が変化した時は、マニュアルに沿って家族と相談するとともに主治医の指示を仰ぎ対応している。入院時は職員が訪問して状況を聞き、寝たきりにならない様に医師と相談をして、施設に早く戻れるように支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員は、社内の緊急マニュアルを読み、マニュアルに沿った対応が行えようように努めております。普通救命急の訓練も行っています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2～3回、避難訓練を実施しております。その際に指摘があった部分は改善に努め、安全にご入居者様が避難出来るように訓練しております。また、地域の消防団との話し合いの場を設け、災害時の連携を図っております。	年2回の消防訓練を、消防署の参加により「火災・避難・通報」と一連の流れのなかで実施している。夜間の避難訓練は初期消火失敗を想定して、消防署への通報から職員の連絡網による連絡訓練を、実践しながら行なっている。安全防護について、日常の点検の大事さを認識し朝夕実施されている。成田市の消防団とは、協力の話し合いが行われている。	ほっかほっか新聞に消防訓練の夜間を想定した避難訓練の様子を写真入りでコメントし、また日常的な火元点検の結果を載せて、取り組み状況を知らせる事で安心感を与える工夫が望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	社内の接遇マニュアルを職員は各自熟読し、常に職員はご利用者様の声掛けには注意をし、プライバシーが損なわれないように支援しております。	接遇マニュアルは入所時や日常の自己学習により、利用者の人格を尊重した丁寧な言葉遣いがなされている。管理職は入浴や排泄等のケアにおいて、おもてなしの心で接する支援するように指導している。日頃から利用者が何をしたいのかを観察し、気付きの中から柔軟に対応し、尊厳やプライバシーに配慮した支援が行われている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員は、日々の生活の中で、ご利用者様の思いや希望を表していただいているように支援しております。また、想いを訴えることができないご利用者様は、表情などを観察し、少しでも思いや希望に沿えるよう支援しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	施設での1日の生活の流れはありますが、ご利用者様の生活に合わせて支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人の希望を聞きながら、好きな髪形や、洋服を着られるように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	行事の際など、ご入居者様の好みにあった食事が提供出来るように、栄養士と相談し提供している。また、食事の準備は、ご利用者様と一緒に野菜の皮むきなどを行っています。その他、月1回、手作りおやつを一緒に作り、楽しみを持てるようにしております。	業者から栄養・カロリーに配慮した食材を調理し、味だけでなく見た目、食感や温度にも気をつけて、食事が楽しいものとなる様に配慮している。法人として食事の重要性を認識しており、コンテストを開催して意識の向上を図っている。月一回の家族・利用者と一緒にのおやつ作りは好評で、笑顔が溢れる写真から窺えた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ご入居者様の状態に合わせた食事形態を提供しています。食事、水分量をチェック表に記入し1日の摂取量を把握しています。摂取状況を確認し、体調の変化に気をつけております。糖尿病の方の食事制限もあるので、栄養士と相談し対応しております。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定期の他、排泄の声掛けを行い、訴えがある時など随時、行っております。排泄チェック表に記入を刷ることにより、排泄パターンを把握し、トイレの声掛けを行っている。1人では立てない方もトイレに行きたいと訴えがある場合、職員2人介助にて対応しております。	時間と回数を排泄チェック表で確認し、声掛けや仕草の変化から誘導し、トイレでの排泄を支援している。訴えのある時は随時に対応し、訴えない時は定期的に誘導して、また2人介助での対応も行っている。病院への入院がオムツ使用になる事から、退院時から早期の自立排泄に向けて取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ご利用者様の多くは、便秘で下剤を飲まれている方がおります。また、薬以外で排便が出るようにと、ヨーグルトを召し上がられているご入居者様もおります。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	ご本人様のペースに合わせて、入浴が出来るように支援しております。また、入浴前にはバイタルチェックを体調管理にも注意しています。	入浴回数をチェック表に記入して、バイタルチェックと体調や顔色を見て、入浴の支援を行っている。入浴拒否の人には、声掛けや時間をずらしての無理をしない誘導を行い、清拭による対応もなされている。入浴後のスキンケアで乾燥肌に配慮し、脱衣所の温度や浴室の滑り防止で、安全管理に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間、安眠が出来るように日中は体操やレク活動を行っています。ご本人様のペースに合わせて拒否がある時は、無理には行っていません。夜間眠れない方もおりますので、無理に眠っていただくのではなく、起きてもらったり、温かい飲み物などを提供しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬管理表を職員が周知し、ご利用者様が飲んでいる薬を把握しています。誤薬がないよう、セット時・服薬時等、職員によるダブルチェックを行っています。常に職員が薬内容を把握できるよう努めております。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご利用者様のペースに合わせて、楽しみのある活動を見つけ支援しています。毎日、ご本人様の好きな飲み物も提供しております。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人ひとりに合わせた外出支援はできていませんが、暖かい時期などは、公園への散歩や、庭先での外気浴等を行っております。また、数名ですが、夏に同法人が運営するデイサービスの夏祭りに参加し、楽しんだりもしました。	介護度は上がっているが、外の空気を吸いたい利用者が多く、車椅子を使って安全な外出の支援を行っている。公園への散歩や季節になると庭でのいちご狩り、桜やひまわりを見に出かけ、家族の協力を得て外出や食事も行われている。外出できない人は、職員と一緒に太陽を浴びながら話をし、外出気分を楽しんでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭等は、施設で管理しています。買い物等の支払いは施設職員が行っております。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご利用者様やご家族様から、電話がしたいとの申し出があった時には、お話が出来るように支援しております。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節にあった掲示物をご利用者様と一緒に作成し、季節感を感じていただけるように支援しております。また、常に温度調節を行いご利用者様が快適に過ごせるように心掛けております。	共有空間には、塗り絵・切り絵・行事の写真等の楽しい情景が飾られ、毎月1回掲示物を変えて季節を感じさせている。大きなカレンダーや食事のメニューに月日を入れて、今日が何月何日を意識してもらっている。日中の多くの時間を過ごすリビングルームは、ソファーに座り仲の良い人との話をし、楽しい時間を過ごせる工夫がなされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ご利用者様は、リビングにて日中は過ごされていることが多く、定位置が決まっております。レク活動の際は、席から離れてレクを行い他のご利用者様と楽しく会話されたりしております。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご利用者様の居室には、今まで使い慣れた家具等を持って来ていただき、少しでも以前に暮らしていたようなお部屋になるよう心掛けております。	馴染みの物や大切な物を持ち込んで、居心地よく暮らせるように配慮をしている。居室には防災カーテンが備え付けられていて防火や安全に気を配っている。温度管理は職員による細やかな気遣いで、健康に対する配慮が感じられる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部は、すべてバリアフリーであり、必要とする所にはすべて手すりが設置されております。職員は、ご利用者様の出来ることを把握し、自立した生活が送れるよう支援しています。		